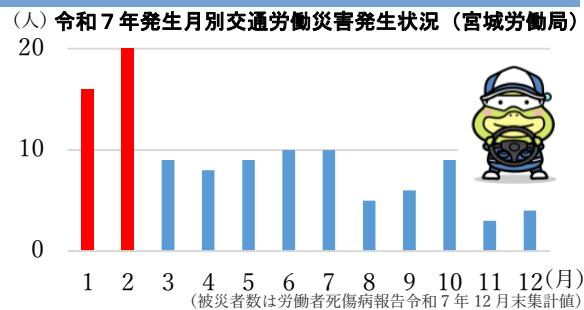
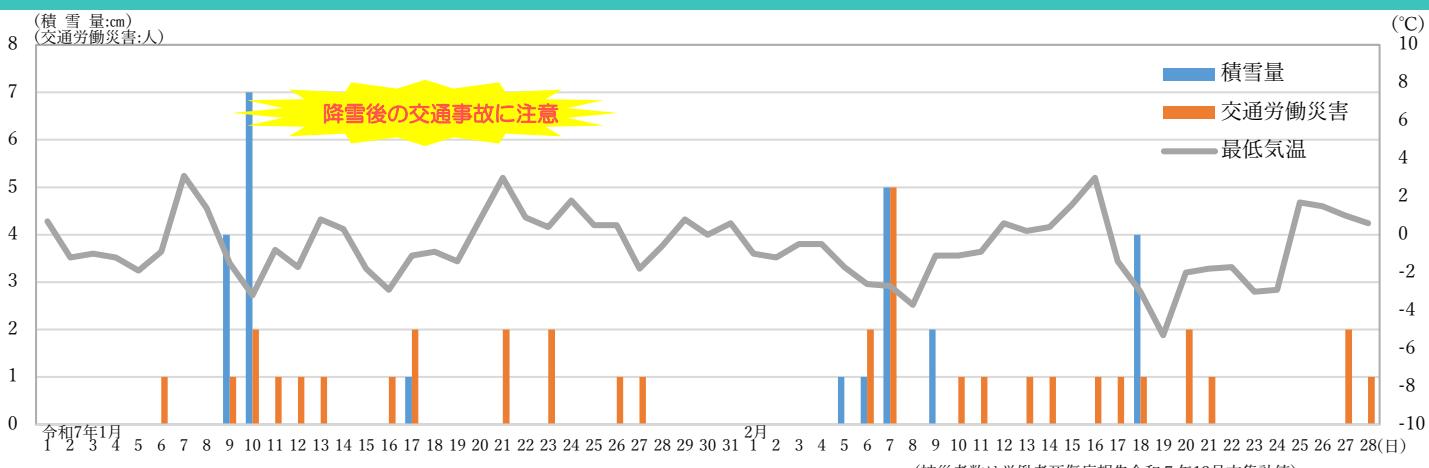


積雪・凍結路面の交通労働災害を減らしましょう！

宮城労働局管内では、例年冬季に積雪、路面凍結、吹雪による視界の悪化等を原因とする交通労働災害が多発しています。令和7年においても、1月から2月には休業4日以上の交通労働災害（以下「交通労働災害」という）が増加している状況です。冬季の交通労働災害の減少を図るために、冬季特有の交通労働災害防止対策の実施をお願いします。

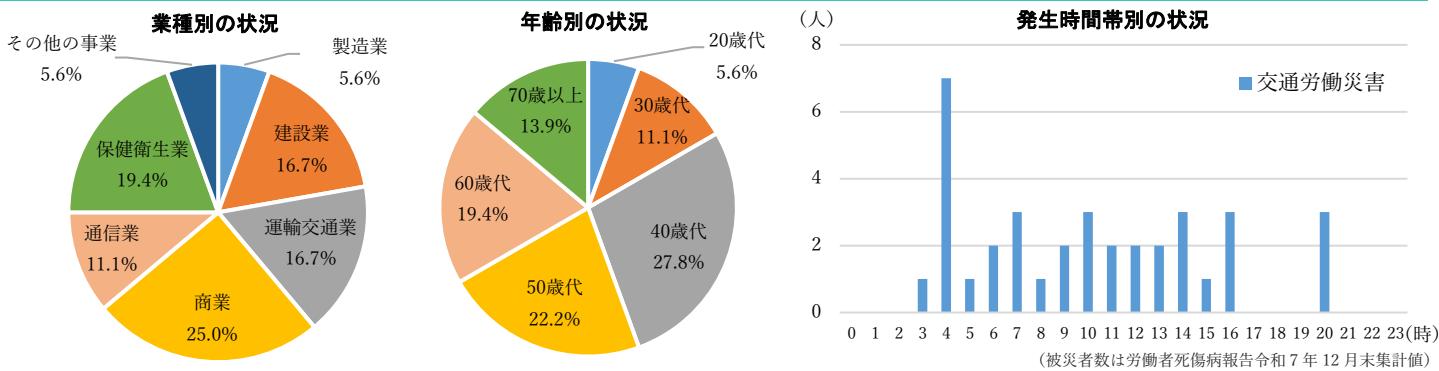


宮城労働局管内の交通労働災害の発生状況（令和7年1月～2月）



令和7年は、1月9日から10日にかけて大雪となり、仙台では積雪7cmを記録し、積雪、路面凍結、吹雪による視界の悪化等を原因とする交通労働災害が発生しました。気温が低い日は路面凍結が発生し、特に橋は吹きさらしのため凍結しやすく、交差点は路面が磨かれて滑りやすいので注意が必要です。

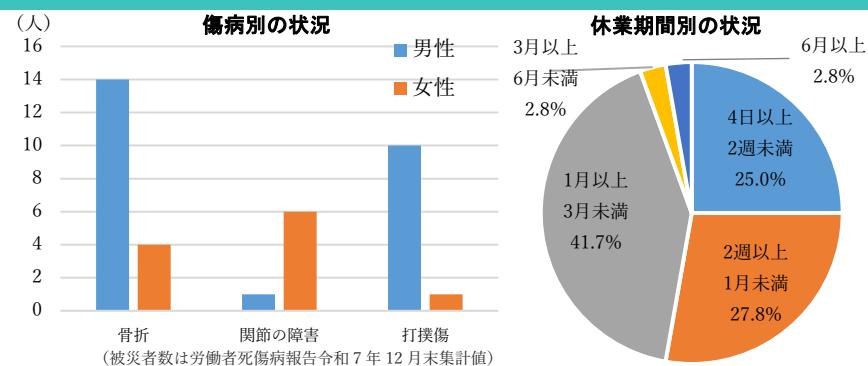
宮城労働局管内の交通労働災害の業種別、年齢別、発生時間帯別の状況（令和7年1月～2月発生分）



宮城労働局管内の交通労働災害の被災程度等の状況（令和7年1月～2月発生分）

交通労働災害のうち55.6%は手足等を骨折する重傷災害です。

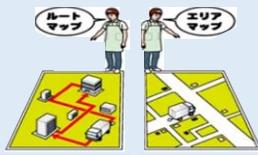
被災程度別では、休業1か月以上3か月未満41.7%、2週間以上1か月未満27.8%、4日以上2週未満25.0%の順となっています。休業1か月以上が半数を占め、休業期間が長期化しています。



冬季における(積雪、路面凍結、吹雪による視界の悪化等による)交通労働災害防止対策について

気象情報の活用によるリスク低減の実施

- ・大雪、低温に関する気象情報を把握する体制を構築しましょう。
- ・警報等報発令時の対応マニュアルを作成し、労働者に周知しましょう。
- ・気象状況に応じ、出張・作業計画の作成、見直しを行いましょう。
- ・気象情報を踏まえた所要時間、制限速度等を考慮し、無理のない運行計画を策定しましょう。
- ・異常な天候、豪雪等が発生した場合、正確な情報を把握し、運転者への情報伝達、走行の中止、一時待機等の指示を行いましょう。



降雪・気象情報



(気象庁)

冬の道路情報



(国土交通省)

特に注意が必要な場所等について

- ・**橋の上**: 吹きさらしのため、凍結しやすく、他の道路が凍結していないなくても凍結している場合があります。橋の手前から速度を控えましょう。
- ・**交差点**: 多くの車が通り路面が磨かれ滑りやすくなっています。早めのブレーキを心がけましょう。
- ・**トンネル出入口**: 日陰となり凍結していることがあります。トンネル出口の路面状況に注意しましょう。
- ・**ホワイトアウト**: 強風時の地吹雪や、雪粒子の太陽の反射により発生することがあります。遭遇した時は、減速し、車間距離を確保、ライトやハザードランプを点灯し、周囲に自車の存在を知らせましょう。



安全教育等の実施について

- ・交通法規の遵守、睡眠時間の確保、体調維持の必要性について雇入れ時等の教育を行いましょう。必要に応じて、指導役が添乗し、実地指導を行いましょう。
- ・睡眠時間の確保、交通事故発生情報、ドライブ・レコーダーの記録などから判明した安全走行に必要な情報に関する事項などについて安全教育を行いましょう。
- ・イラストシート、写真などを使って、危険性を予知し、防止対策を立てることによって、安全を確保する能力を身につけさせる交通危険予知訓練を行いましょう。



冬用タイヤ、タイヤチェーンの使用等について

- ・冬用タイヤについては、年月が経過すると硬化し性能が低下します。製造年月や硬度を確認し、長期間使用しているもの等は交換しましょう。
- ・冬用タイヤには、プラットホームがあります。プラットホームが表面に出てきたものは交換しましょう。
- ・路面凍結、降雪等路面状況に応じて、タイヤチェーンの使用を検討しましょう。



(出典:国土交通省)

冬季運転時の注意点について

- ・積雪、路面凍結時は速度控え目で走行し、普段より車間距離を長めに確保しましょう。
- ・急のつく動作(急発進、急ハンドル、急ブレーキ)は避けましょう。
- ・窓ガラスが曇ったときはエアコンを使い、窓ガラスの曇りをとつて視界を確保しましょう。
- ・他車からの視認性向上のため、早朝、夕方は早めのライト点灯をしましょう。

冬季の運転は
慎重にしよう



- ・運転中に「ヒヤリ」とした場所を地図に示した「交通ヒヤリマップ」を作成し、労働者間で情報共有しましょう。



交通ヒヤリマップ



(厚生労働省)

交通ヒヤリマップ (例)